アラートを管理する
Active IQ Unified Manager

NetApp
November 13, 2026

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/active-iq-unified-manager-918/events/concept_what_alerts_are.html on November 13, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

アラートを管理する . . . 1
- Active IQ Unified Manager のアラートについて . . . 1
- Active IQ Unified Manager アラートメールに含まれる情報 . . . 1
- アラートの追加 . . . 2
  - Active IQ Unified Manager でアラートを追加する . . . 2
  - Active IQ Unified Manager でアラートを追加するためのガイドライン . . . 4
- Active IQ Unified Manager でパフォーマンス イベントのアラートを追加する . . . 5
- Active IQ Unified Manager でのテストアラート . . . 6
- Active IQ Unified Manager で解決済みおよび廃止されたイベントのアラートを無効にする . . . 6
- Active IQ Unified Manager でディザスタリカバリ先ボリュームをアラート生成対象から除外する . . . 7
- Active IQ Unified Manager でアラートを表示する . . . 8
- Active IQ Unified Manager でアラートを編集する . . . 8
- Active IQ Unified Manager でアラートを削除する . . . 9
- アラートのウィンドウとダイアログ ボックスの説明 . . . 9
  - Active IQ Unified Manager のアラート設定ページについて . . . 9
  - Active IQ Unified Manager の「アラートの追加」ダイアログボックスについて . . . 11
  - Active IQ Unified Manager でアラートプロパティを編集する . . . 13

アラートを管理する

Active IQ Unified Manager のアラートについて

イベントは継続的に発生しますが、Unified Manager は、イベントが指定されたフィルタ条件を満たした場合にのみアラートを生成します。アラートを生成するイベントを選択できます。たとえば、スペースのしきい値を超えた場合や、オブジェクトがオフラインになった場合などです。アラートが発生したときに実行されるスクリプトをアラートに関連付けることもできます。

フィルタ条件には、オブジェクト クラス、名前、またはイベントの重大度が含まれます。

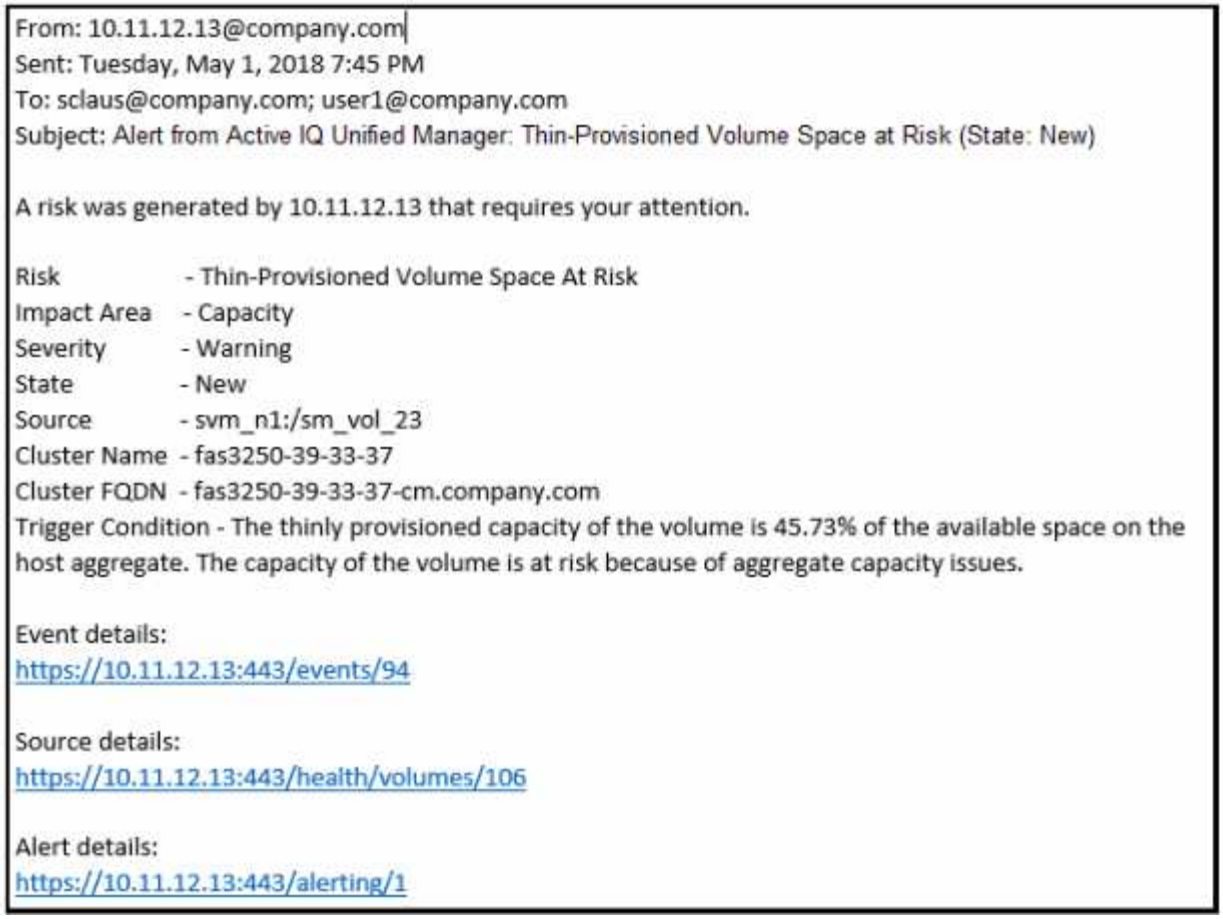
Active IQ Unified Manager アラートメールに含まれる情報

Unified ManagerのアラートEメールには、イベントのタイプ、イベントの重大度、イベントの原因となった違反したポリシーまたはしきい値の名前、およびイベントの説明が記載されています。また、UIでイベントの詳細ページを確認できるように、各イベントのハイパーリンクもEメール メッセージ内に記載されています。

アラートEメールは、アラートを受信するように登録しているすべてのユーザに送信されます。

パフォーマンス カウンタや容量の値が収集期間内に大きく変わった場合、同じしきい値ポリシーに対して重大イベントと警告イベントの両方が同時にトリガーされることがあります。この場合、警告イベントのEメールと重大イベントのEメールを1通ずつ受信する可能性があります。これは、Unified Managerでは、警告と重大のしきい値違反に対するアラートを受信するように個別に登録できるためです。

アラートEメールの例を次に示します。



アラートの追加

Active IQ Unified Manager でアラートを追加する

特定のイベントが生成されたときに通知するようにアラートを設定できます。アラートは、単一のリソース、リソースのグループ、または特定の重大度タイプのイベントについて設定することができます。通知を受け取る頻度を指定したり、アラートにスクリプトを関連付けたりできます。

開始する前に

- イベントが生成されたときにActive IQ Unified Managerサーバからユーザに通知を送信できるように、通知に使用するユーザのEメール アドレス、SMTPサーバ、SNMPトラップ ホストなどを設定しておく必要があります。
- アラートをトリガーするリソースとイベント、および通知するユーザのユーザ名またはEメール アドレスを確認しておく必要があります。
- イベントに基づいてスクリプトを実行する場合は、[スクリプト]ページを使用してUnified Managerにスクリプトを追加しておく必要があります。
- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

アラートは、ここで説明する手順に従って[アラート セットアップ]ページで作成できるほか、イベントを受け取ったあとに[イベントの詳細]ページで直接作成することもできます。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ管理 > アラート設定 をクリックします。
2. *アラート設定*ページで、*追加*をクリックします。
3. *アラートの追加*ダイアログボックスで、*名前*をクリックし、アラートの名前と説明を入力します。
4. *Resources*をクリックし、アラートに含めるまたはアラートから除外するリソースを選択します。

   *名前に含む*フィールドにテキスト文字列を指定してフィルタを設定すると、リソースのグループを選択できます。指定したテキスト文字列に基づいて、使用可能なリソースのリストには、フィルタルールに一致するリソースのみが表示されます。指定するテキスト文字列では大文字と小文字が区別されます。

   あるリソースが対象に含めるルールと除外するルールの両方に該当する場合は、除外するルールが優先され、除外されたリソースに関連するイベントについてはアラートが生成されません。

5. * Events *をクリックし、アラートをトリガーするイベント名またはイベント重大度タイプに基づいてイベントを選択します。

   複数のイベントを選択するには、Ctrlキーを押しながら選択します。

6. * アクション * をクリックし、通知するユーザーを選択し、通知頻度を選択し、トラップ受信者に SNMP トラップを送信するかどうかを選択し、アラートが生成されたときに実行するスクリプトを割り当てます。

   該当するユーザのEメール アドレスを変更し、その後アラートを編集するために開くと、[名前]フィールドは空欄になります。これは、Eメールが変更されたことでユーザとのマッピングが無効になったためです。また、選択したユーザのEメール アドレスを[ユーザ]ページで変更した場合、変更後のEメール アドレスは反映されません。

   SNMPトラップを使用してユーザに通知することもできます。

7. *保存*をクリックします。

アラートの追加例

ここでは、次の要件を満たすアラートを作成する例を示します。

- アラート名：HealthTest
- リソース：名前に「abc」を含むすべてのボリュームを対象に含め、名前に「xyz」を含むすべてのボリュームを対象から除外する
- イベント：健全性に関するすべての重大なイベントを対象に含める
- 処理：「Test」スクリプトを割り当て、「sample@domain.com」のユーザに15分ごとに通知する

[Add Alert]ダイアログ ボックスで、次の手順を実行します。

1. 名前*をクリックし、*アラート名*フィールドに`HealthTest`*を入力します。
2. *Resources*をクリックし、Includeタブでドロップダウンリストから*Volumes*を選択します。
   a. 名前に含む フィールドに **`abc`** を入力して、名前に「abc」を含むボリュームを表示します。

b. [使用可能なリソース] 領域から **<<All Volumes whose name contains 'abc'>>** を選択し、[選択したリソース] 領域に移動します。

c. 「除外」をクリックし、「名前に含む」フィールドに「**xyz**」と入力して、「追加」をクリックします。

3. *イベント*をクリックし、イベントの重大度フィールドから*重大*を選択します。
4. [一致するイベント] 領域から すべての重要なイベント を選択し、[選択したイベント] 領域に移動します。
5. **Actions** をクリックし、「Alert these users」フィールドに **sample@domain.com** を入力します。
6. ユーザーに 15 分ごとに通知するには、*15 分ごとに通知*を選択します。

   指定した期間、受信者に繰り返し通知を送信するようにアラートを設定できます。アラートに対してイベント通知をアクティブにする時間を決める必要があります。

7. [実行するスクリプトの選択] メニューで、**Test** スクリプトを選択します。
8. *保存*をクリックします。

Active IQ Unified Manager でアラートを追加するためのガイドライン

アラートは、リソース（クラスタ、ノード、アグリゲート、ボリュームなど）とイベントの重大度に基づいて追加することができます。ベストプラクティスとして、重要なオブジェクトが属するクラスタを追加したあと、それらのすべてのオブジェクトについてのアラートを追加することを推奨します。

アラートを作成する際は、システムを効率的に管理できるように次のガイドラインと考慮事項を参考にしてください。

- アラートの説明

  アラートを効率的に追跡できるように、わかりやすい説明を入力します。

- リソース

  アラートが必要な物理リソースまたは論理リソースを決める必要があります。リソースは必要に応じて追加したり除外したりできます。たとえば、アラートを設定してアグリゲートを詳細に監視する場合は、リソースのリストから必要なアグリゲートを選択する必要があります。

  リソースのカテゴリ（例：**<<All User or Group Quotas>>**）を選択すると、そのカテゴリのすべてのオブジェクトに関するアラートが届きます。

  > リソースとしてクラスタを選択しても、そのクラスタ内のストレージ オブジェクトは自動的には選択されません。たとえば、すべてのクラスタのすべての重大イベントを対象とするアラートを作成した場合、受信するアラートの対象はクラスタの重大イベントのみです。ノードやアグリゲートなどの重大イベントに対するアラートは受信しません。

- イベントの重大度

  イベントの重大度（重大、エラー、警告）ごとにアラートをトリガーするかどうかを決めて、アラートをトリガーする重大度を指定する必要があります。

- 選択したイベント

  生成されるイベントのタイプに基づいてアラートを追加する場合は、アラートが必要なイベントを決める必要があります。

  イベントの重大度を選択し、かつ個々のイベントを選択しなかった場合（[選択したイベント]列を空白にした場合）は、カテゴリのすべてのイベントに関するアラートが表示されます。

- 操作

  通知を受信するユーザのユーザ名とEメール アドレスを指定する必要があります。通知のモードとしてSNMPトラップを指定することもできます。アラートが生成されたときに実行されるように、アラートにスクリプトを関連付けることができます。

- 通知の頻度

  指定した期間、受信者に繰り返し通知を送信するようにアラートを設定できます。アラートに対してイベント通知をアクティブにする時間を決める必要があります。イベントが確認されるまでイベント通知を再送する場合は、通知を再送する頻度を決める必要があります。

- スクリプトを実行

  アラートにスクリプトを関連付けることができます。スクリプトはアラートが生成されると実行されます。

Active IQ Unified Manager でパフォーマンス イベントのアラートを追加する

パフォーマンス イベントのアラートは、Unified Managerで受信する他のイベントと同様に、イベントごとに個別に設定することができます。また、すべてのパフォーマンス イベントを同じように扱い、同じユーザにEメールを送信する場合は、重大または警告のパフォーマンス イベントがトリガーされたときに通知する共通のアラートを作成することもできます。

開始する前に

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

ここでは、レイテンシ、IOPS、およびMBpsのすべての重大イベントに対するアラートを作成する例を示します。同じ方法ですべてのパフォーマンス カウンタからイベントを選択して、すべての警告イベントに対するアラートを作成することもできます。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ管理 > アラート設定 をクリックします。
2. *アラート設定*ページで、*追加*をクリックします。
3. *アラートの追加*ダイアログボックスで、*名前*をクリックし、アラートの名前と説明を入力します。
4. 「リソース」ページでは、リソースを選択しないでください。

   リソースを選択していないため、クラスタ、アグリゲート、ボリュームなど、何に対するイベントを受信したかに関係なく、すべてのリソースにアラートが適用されるようになります。

5. 「イベント」をクリックし、以下の操作を実行してください：
   a. イベントの重大度リストで、「重大」を選択します。
   b. 「イベント名に含む」フィールドに*latency*を入力し、矢印をクリックして一致するすべてのイベントを選択します。
   c. 「イベント名に含む」フィールドに*iops*を入力し、矢印をクリックして一致するすべてのイベントを選択します。
   d. 「イベント名に含む」フィールドに、**mbps** を入力し、矢印をクリックして、一致するすべてのイベントを選択します。
6. **Actions** をクリックし、**Alert these users** フィールドで、アラートメールを受信するユーザーの名前を選択します。
7. SNMPトラップの発行やスクリプトの実行など、このページの他のオプションを設定します。
8. *保存*をクリックします。

Active IQ Unified Manager でのテストアラート

アラートをテストして、アラートが正しく設定されていることを確認できます。イベントがトリガーされるとアラートが生成され、設定した受信者にアラートEメールが送信されます。テスト アラートを使用して、通知が送信されるかどうか、およびスクリプトが実行されるかどうかを確認できます。

開始する前に

- 通知の設定（受信者のEメール アドレス、SMTPサーバ、SNMPトラップなど）を実行しておく必要があります。

  Unified Managerサーバはこれらの設定を使用して、イベントが生成されたときにユーザに通知を送信します。

- スクリプトを割り当てて、アラートが生成されたときに実行するようにスクリプトを設定しておく必要があります。
- アプリケーション管理者のロールが必要です。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ管理 > アラート設定 をクリックします。
2. 「Alert Setup」ページで、テストするアラートを選択し、「Test」をクリックします。

   アラートの作成時に指定したEメール アドレスにテスト アラートEメールが送信されます。

Active IQ Unified Manager で解決済みおよび廃止されたイベントのアラートを無効にする

アラートを送信するように設定したすべてのイベントについて、それらのイベントが「新規」、「解決済み」、「廃止済み」というすべての状態を遷移したときにアラートメッセージが送信されます。イベントが解決済みまたは廃止済み状態に移行した際にアラートを受信したくない場合は、グローバル設定を構成してこれらのアラートを抑制する

ことができます。

開始する前に

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

デフォルトでは、イベントが解決済み / 廃止状態に移行する際にアラートは送信されません。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ管理 > アラート設定 をクリックします。
2. 「Alert Setup」ページで、「Alerts for Resolved and Obsolete events」の横にあるスライダーコントロールを使用して、次のいずれかの操作を実行します。

目的	操作
イベントが解決済みまたは廃止状態に移行したときのアラートの送信を停止する	スライダを左に移動する
イベントが解決済みまたは廃止状態に移行したときのアラートの送信を開始する	スライダを右に移動する

Active IQ Unified Manager でディザスタリカバリ先ボリュームをアラート生成対象から除外する

ボリュームのアラートを設定するときは、[アラート]ダイアログ ボックスでボリュームまたはボリューム グループを識別する文字列を指定できます。ただし、SVMのディザスタ リカバリを設定している場合は、ソース ボリュームとデスティネーション ボリュームの名前が同じであるため、両方のボリュームについてアラートを受け取ることになります。

開始する前に

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

災害復旧先のボリュームに関するアラートを無効にするには、復旧先のSVMと同じ名前を持つボリュームを除外します。これは、ボリュームイベントの識別子に、SVM名とボリューム名の両方が「<svm_name>:/<volume_name>」の形式で含まれているためです。

ここでは、プライマリSVM「vs1」にあるボリューム「vol1」に対するアラートを作成し、SVM「vs1-dr」にある同じ名前のボリュームはアラート生成の対象から除外する例を示します。

[Add Alert]ダイアログ ボックスで、次の手順を実行します。

手順

1. *名前*をクリックし、アラートの名前と説明を入力します。
2. 「リソース」をクリックし、「含める」タブを選択します。
   a. ドロップダウンリストから*ボリューム*を選択し、名前に含む*フィールドに`vol1`*と入力して、名前に「vol1」を含むボリュームを表示します。
   b. **<<All Volumes whose name contains 'vol1'>>** を 利用可能なリソース エリアから選択し、選択され

たリソース エリアに移動します。

3. 「除外」タブを選択し、「ボリューム」を選択して、「名前に含む」フィールドに*vs1-dr*と入力し、「追加」をクリックします。

   これにより、SVM「vs1-dr」にあるボリューム「vol1」がアラートの生成対象から除外されます。

4. **Events** をクリックし、ボリュームに適用するイベントを選択します。
5. **Actions** をクリックし、**Alert these users** フィールドで、アラートメールを受信するユーザーの名前を選択します。
6. SNMPトラップの発行やスクリプトの実行に関するその他のオプションをこのページで設定し、*保存*をクリックしてください。

Active IQ Unified Manager でアラートを表示する

さまざまなイベントに対して作成されるアラートのリストを[アラート セットアップ]ページから表示できます。また、アラートのプロパティを表示することもできます。このプロパティには、アラートの説明、通知方式と通知頻度、アラートをトリガーするイベント、アラートのEメール受信者、影響を受けるリソース（例：クラスタ、アグリゲート、ボリューム）などがあります。

開始する前に

オペレータ、アプリケーション管理者、またはストレージ管理者のロールが必要です。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ管理 > アラート設定 をクリックします。

   [アラート セットアップ]ページにアラートのリストが表示されます。

Active IQ Unified Manager でアラートを編集する

関連付けられているリソース、イベント、受信者、通知オプション、通知頻度、関連付けられているスクリプトなど、アラートのプロパティを編集することができます。

開始する前に

アプリケーション管理者のロールが必要です。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ管理 > アラート設定 をクリックします。
2. 「Alert Setup」ページで、編集するアラートを選択し、「Edit」をクリックします。
3. 「アラートの編集」ダイアログボックスで、必要に応じて名前、リソース、イベント、アクションの各セクションを編集します。

   アラートに関連付けられているスクリプトについては、変更と削除が可能です。

4. *保存*をクリックします。

Active IQ Unified Manager でアラートを削除する

不要になったアラートを削除できます。たとえば、特定のリソースがUnified Managerの監視対象でなくなった場合、そのリソースについて作成されたアラートを削除できます。

開始する前に

アプリケーション管理者のロールが必要です。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、ストレージ管理 > アラート設定 をクリックします。
2. 「Alert Setup」ページで、削除するアラートを選択し、「Delete」をクリックします。
3. 削除リクエストを確定するには、「はい」をクリックしてください。

アラートのウィンドウとダイアログ ボックスの説明

Active IQ Unified Manager のアラート設定ページについて

[アラート セットアップ]ページには、アラートのリストおよびアラート名、ステータス、通知方式、通知頻度に関する情報が表示されます。また、このページでアラートを追加、編集、削除、有効化、無効化することもできます。

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

コマンド ボタン

- 追加

  [アラートの追加]ダイアログ ボックスが表示され、新しいアラートを追加できます。

- 編集

  [アラートの編集]ダイアログ ボックスが表示され、選択したアラートを編集できます。

- 削除

  選択したアラートを削除します。

- 有効にする

  選択したアラートを有効にして通知を送信します。

- 無効にする

  通知の送信を一時的に停止する場合に、選択したアラートを無効にします。

- テスト

選択したアラートをテストして、アラートの追加後または編集後にその設定を検証します。

- 解決済みおよび廃止されたイベントに関するアラート

  イベントが解決済みまたは廃止状態に移行した場合のアラートの送信を有効または無効にすることができます。これにより、ユーザは不要な通知を受信せずに済みます。

リスト ビュー

リスト ビューには、作成されたアラートに関する情報が表形式で表示されます。列のフィルタを使用して、表示するデータをカスタマイズできます。アラートを選択して、そのアラートに関する詳しい情報を詳細領域に表示することもできます。

- ステータス

  アラートが有効（）か無効（）かを指定します。

- アラート

  アラートの名前が表示されます。

- 概要

  アラートの説明が表示されます。

- 通知方法

  アラート用に選択した通知方式が表示されます。EメールまたはSNMPトラップを使用してユーザに通知できます。

- 通知頻度

  イベントが確認または解決されるか、廃止状態に設定されるまでの間、管理サーバが通知を送信する頻度（分）を示します。

詳細領域

詳細領域には、選択したアラートに関する詳細情報が表示されます。

- アラート名

  アラートの名前が表示されます。

- アラートの概要

  アラートの説明が表示されます。

- イベント

  アラートをトリガーするイベントが表示されます。

- リソース

アラートをトリガーするリソースが表示されます。

- 含まれるもの

  アラートをトリガーするリソースのグループが表示されます。

- 除外

  アラートをトリガーしないリソースのグループが表示されます。

- 通知方法

  アラートの通知方式が表示されます。

- 通知頻度

  イベントが確認または解決されるか、廃止状態に設定されるまでの間、管理サーバがアラート通知を送信する頻度が表示されます。

- スクリプト名

  選択したアラートに関連付けられているスクリプトの名前が表示されます。このスクリプトはアラートが生成された際に実行されます。

- メール受信者

  アラート通知を受信するユーザのEメール アドレスが表示されます。

Active IQ Unified Manager の「アラートの追加」ダイアログボックスについて

アラートを作成すると、特定のイベントが生成されたときに通知されるため、問題に迅速に対処し、環境に対する影響を最小限に抑えることができます。アラートは、単一のリソース、一連のリソース、および特定の重大度タイプのイベントについて作成することができます。アラートの通知方式と通知頻度を指定することもできます。

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

Name

この領域では、アラートの名前と説明を指定できます。

- アラート名

  アラート名を指定できます。

- アラートの概要

  アラートの説明を指定できます。

リソース

この領域では、アラートをトリガーしたい個々のリソースを選択したり、動的なルールに基づいてリソースをグループ化したりできます。_動的ルール_とは、指定したテキスト文字列に基づいてフィルタリングされたリソースのセットのことです。ドロップダウンリストからリソースの種類を選択してリソースを検索するか、正確なリソース名を指定して特定のリソースを表示することもできます。

いずれかのストレージ オブジェクトの詳細ページからアラートを作成する場合は、ストレージ オブジェクトが自動的にアラートに含まれます。

- 含む

  アラートをトリガーしたいリソースを含めることができます。テキスト文字列を指定して、その文字列に一致するリソースをグループ化し、そのグループをアラートに含めるように選択できます。たとえば、「abc」という文字列が名前に含まれるすべてのボリュームをグループ化できます。

- 除外

  アラートを発生させたくないリソースを除外することができます。たとえば、「xyz」と指定して、この文字列が名前に含まれるすべてのボリュームを除外することができます。

  「除外」タブは、特定のリソースタイプのすべてのリソースを選択した場合にのみ表示されます：たとえば、<<All Volumes>>または<<All Volumes whose name contains 'xyz'>>。

  あるリソースが対象に含めるルールと除外するルールの両方に該当する場合は、除外するルールが優先され、イベントについてはアラートが生成されません。

イベント

この領域では、アラートを作成するイベントを選択できます。特定の重大度に基づくイベントまたは一連のイベントに対してアラートを作成できます。

複数のイベントを選択するには、Ctrlキーを押しながら選択します。

- イベントの深刻度

  重大度タイプに基づいてイベントを選択できます。タイプは、「重大」、「エラー」、または「警告」のいずれかになります。

- イベント名に以下が含まれる

  指定した文字が名前に含まれるイベントを選択できます。

操作

この領域では、アラートがトリガーされた場合に通知するユーザを指定できます。通知方式と通知頻度を指定することもできます。

- これらのユーザーに通知する

  通知を受信するユーザのEメール アドレスまたはユーザ名を指定できます。

  該当するユーザのEメール アドレスを変更し、その後アラートを編集するために開くと、[名前]フィール

ドは空欄になります。これは、Eメールが変更されたことでユーザとのマッピングが無効になったためです。また、選択したユーザのEメール アドレスを[ユーザ]ページで変更している場合、変更後のEメール アドレスは反映されません。

- 通知頻度

  イベントが確認または解決されるか、廃止状態に設定されるまでの間、管理サーバが通知を送信する頻度を指定できます。

  次のいずれかの通知方式を選択できます。

  - 1回だけ通知する。
  - 指定の頻度で通知する。
  - 指定の期間に指定の頻度で通知する。

- **SNMP**トラップの発行

  このチェック ボックスをオンにすると、グローバルに設定されたSNMPホストにSNMPトラップを送信するかどうかを指定できます。

- スクリプトを実行

  アラートにカスタム スクリプトを追加できます。このスクリプトはアラートが生成された際に実行されます。

  > この機能がユーザ インターフェイスに表示されない場合は、管理者によって無効にされています。必要に応じて、ストレージ管理 > 機能設定 からこの機能を有効にできます。

コマンド ボタン

- 保存

  アラートを作成してダイアログ ボックスを閉じます。

- キャンセル

  変更内容を破棄してダイアログ ボックスを閉じます。

Active IQ Unified Manager でアラートプロパティを編集する

関連付けられているリソース、イベント、スクリプト、通知オプションなど、アラートのプロパティを編集することができます。

Name

この領域では、アラートの名前と説明を編集できます。

- アラート名

  アラート名を編集できます。

- アラートの概要

  アラートの説明を指定できます。

- アラート状態

  アラートを有効または無効にできます。

リソース

この領域では、アラートをトリガーする対象のリソースを選択できます。リソースは個別に選択できるほか、動的ルールに基づいてグループ化することも可能です。ドロップダウン リストからリソース タイプを選択してリソースを検索するか、正確なリソース名を指定して特定のリソースを表示できます。

- 含む

  アラートをトリガーしたいリソースを含めることができます。テキスト文字列を指定して、その文字列に一致するリソースをグループ化し、そのグループをアラートに含めるように選択できます。例えば、名前に「`vol0`」という文字列が含まれるすべてのボリュームをグループ化できます。

- 除外

  アラートをトリガーする対象から除外するリソースを指定できます。例えば、名前に「`xyz`」という文字列が含まれるボリュームをすべて除外することができます。

> 「除外」タブは、特定のリソースタイプのすべてのリソースを選択した場合にのみ表示されます（例：<<All Volumes>> または <<All Volumes whose name contains 'xyz'>>）。

イベント

この領域では、アラートをトリガーするイベントを選択できます。アラートは特定の重大度のイベントに対してトリガーするか、一連のイベントを指定してトリガーできます。

- イベントの深刻度

  重大度タイプに基づいてイベントを選択できます。タイプは、「重大」、「エラー」、または「警告」のいずれかになります。

- イベント名に以下が含まれる

  名前に指定した文字を含むイベントを選択できます。

操作

この領域では、通知方式と通知頻度を指定できます。

- これらのユーザーに通知する

  通知の受信者のEメール アドレスまたはユーザ名を編集できます。新しいEメール アドレスまたはユーザ名を指定することもできます。

- 通知頻度

管理サーバからの通知の送信頻度を編集できます。イベントが確認されるか、解決されるか、廃止状態になるまで、この頻度で通知が送信されます。

次のいずれかの通知方式を選択できます。

- 1回だけ通知する。
- 指定の頻度で通知する。
- 指定の期間に指定の頻度で通知する。

- **SNMP**トラップの発行

  グローバル設定のSNMPホストにSNMPトラップを送信するかどうかを指定できます。

- スクリプトを実行

  アラートにスクリプトを関連付けることができます。このスクリプトはアラートが生成された際に実行されます。

コマンド ボタン

- 保存

  変更内容を保存してダイアログ ボックスを閉じます。

- キャンセル

  変更内容を破棄してダイアログ ボックスを閉じます。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。